ブナセンターだより

8月号
No.398 2026.8.1

ブナセンターは(月)(火)休館ですが、お盆期間8/10,11は開館します。8/13(木)はお盆休みのため、夜間開放をお休みします。

＜今月のご案内＞

わくわく
土曜日ランド

川のいきもの調査

町内の川に入り、いきものを見つけて捕まえます。
どんないきものに出会えるかな？

【日　程】8月1日（土）※予備日 8月6日（木）
【時　間】3～6年生は10:00～12:00
　　1～2年生は14:00～16:00
【集　合】体育館駐車場（9:55 /13:55）
【対　象】町内の小学1～6年生
　　※親子参加可。初参加の1年生は保護者同伴。
【定　員】各回10名　【参加費】300円
【持ち物】濡れてもいい服装、濡れてもいい運動靴、
　　タオル、水筒、帽子、リュック、着替え
【申込み】前日17:00までにブナセンターへ電話
　　※予備日も参加可能かお伝えください。
【その他】雨天や川が増水した場合、
　　予備日に延期、もしくは中止

＜川どうぐ貸出のお知らせ＞

川でみつけよう！

黒松内の川には、かつてここが海だった時代の貝の化石がとれる場所や、網を使って気軽に小さな魚をとれる場所があります。ブナセンターでは、これらの貝化石や魚をとるための道具を貸し出しています。場所やとり方は貸出し時にご案内します。

貝化石

★道具★ ドライバー、くぎ、スコップなど
★期間★ 6月～9月
★とれる化石★ 100万年前の貝などの化石

魚とり

★道具★ タモ網、箱メガネ、バケツ
★期間★ 6月～9月
★とれる生き物★ ウキゴリ、カジカ、ヤマメなど

※ライフジャケットをご持参ください。
※川の水量やヒグマの出没状況によって体験できない場合があります。

野外活動、ヒグマとどうつきあう？

ヒグマは北海道であればどこにでも生息しています。ヒグマは本来、むやみに人を襲うことはなく、人との接触を避ける習性があります。しかし、ヒグマとの付き合い方を間違えると、人身事故につながることも。野外活動でヒグマとの事故を防ぐには、「出会わないこと」が大切です。

ヒグマに出会わないために

①情報を集める
町防災無線・町公式LINE・ひぐまっぷを確認し、最新のヒグマ出没状況をこまめにチェックします。

②音を出す
鈴・笛・声など、音を出して**ヒグマにこちらの存在を知らせ**ましょう。見通しの悪いところでは、特に注意。

③常に周囲に気を配る
時には歩みを止め、草をかき分けるような音や動き、うなり声、けもの臭などがないか注意します。

④サインを見落とさない
フン、足跡、食痕があれば、ヒグマが近くにいるかも。新しい痕跡を見つけたら、早めに退避しましょう。

それでも出会ってしまったら…？

※最低限の対処法。100%助かるというものではありません。

①絶対に走らない・騒がない
逃げると、ヒグマはその人を追いかけます。また、至近距離の場合は大きな音を出すとヒグマを興奮させてしまい危険です。背を向けず、ゆっくり後ずさりして離れます。

②クマ撃退スプレーを噴射（所持している場合）
ヒグマが5mほど※まで接近してきたら、ヒグマの目と鼻のあたりに向かって噴射します。
※スプレーの有効噴射距離を確認しておきましょう。

③防御姿勢（ヒグマが襲いかかってきたら）
ザックを背負ったまま地面に伏せ、首のうしろを手でおおい、足を開いてつま先で地面に踏ん張ります。

ブナセンターでは、町内で自然散策を楽しむ方・団体向けにクマ撃退スプレーの貸出をはじめました。
利用範囲には制約がありますので、詳しくはHPをご覧ください。

100
歌才ブナ林は2028年に天然記念物指定100周年を迎えます

Facebookの
QRコードは
←こちら

発行所：黒松内町ブナセンター
〒048-0101　北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1
TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440
MAIL bunacent@host.or.jp HP https://bunacent.host.jp
FB https://www.facebook.com/kuromatsunai.bunacent

歌才ブナ林天然記念物指定100周年事業実行委員会通信

1
July 2026

2028年の100周年に向け始動！～設立総会～

令和８年５月１３日、役場コミュニティセンターコミュニティホールにて歌才ブナ林天然記念物指定100周年事業実行委員会の設立総会が開催されました。

総会には17名の実行委員全員が参加し、今後の活動について活発な議論を交わしました。会議では池田重人さんを実行委員長に選出するなどの役員の選出のほか予算（案）などについて承認を得ました。

〇歌才ブナ林天然記念物指定100周年事業実行委員会役員名簿〇
実行委員長：池田重人　副実行委員長：斉藤和博、小間章弘
理事：内山哲男、忠鉢廣喜、辻野健治、福田雅樹　監査：小谷孝夫、赤沼隆一

△設立総会の際の様子

設立の経緯や目的について

この会の設立の経緯や目的についてご紹介します。

設立の経緯は？
2028年10月22日、歌才ブナ林が天然記念物として指定されてから100年を迎えます。町全体の機運を高め町内外に100周年を広くPRをしていくために設立しました

設立の目的は？
・町と町民がブナ林を守ってきた歴史や自然と共生するまちづくりをふりかえること
・北限のブナ林が100年後も『誇りとシンボル』としてあり続けるために活動するため

なにをするの？
実行委員会内に広報部会と散策路部会を設置し、2026年は、ロゴやポスターを作成するほか、歌才ブナ林の散策路の補修を少しずつ行っていきます。

イベントに参加してこれまでの歴史に思いを馳せ、100年後の北限のブナ林やブナのある生活について考える期間にしてみませんか？

初心者のための北限のブナ林①

専門家が認めた『奇蹟の森』～天然記念物指定

歌才ブナ林は1928（昭和3）年に国の天然記念物に指定されましたが、その指定に大きく関わったのが林学博士の新島善直でした。

天然記念物調査の委員だった新島は歌才ブナ林を訪れ、黒松内市街地の近くに残るブナの原生林を「奇蹟というべし」と讃え、幹がまっすぐに伸び、幹の上部で広がる枝葉を見て「ヤシの木のようだ」と表現した。

新島博士が国に対して歌才ブナ林を「永久に保存すべし」と提言をしたことで昭和3年10月22日の歌才ブナ林の天然記念物指定決定につながっていきます。

△新島善直（林学博士）

ブナ検定に挑戦！！

ブナや北限のブナにまつわる知識をあつめたブナに関するクイズです。挑戦してみよう！

問題　新島善直の言葉

1923年天然記念物調査のため歌才ブナ林を訪れた林学博士の新島善直は歌才ブナ林を見て調書に下記のとおり記しています。□に入る言葉は何でしょう（漢字２文字です。）

”周囲はほんんど全く□□しつくされたる土地中にかくのごときぶなの原始林を残留せるは奇蹟というべし”

※正解は下に逆さまに書いてあります

今後も不定期に歌才ブナ林天然記念物指定100周年に関わる情報をお伝えしていきます！

検定の答え：開墾（かいこん）

発行元：歌才ブナ林天然記念物指定100周年事業実行委員会（事務局：ブナセンター）
電話：0136-72-4411